〔俗つれ〳〵四〕是ぞ妹背の姿山

四十四五なる奥の、昔を今の兵庫髷可笑げに、〇略中 塗笠に鍍金の環をうたせ、頂なしに赤い締緒、萬嫌なる采體、〇略下

〔近世女風俗考〕こゝにいへる〇俗つれづれ風姿を按ずるに、寛文中ごろのさまと見へたり、延寶年間くぼき塗笠は廢りて、葛笠流行出しより、かくは昔氣質をわらへるなり、

〔毛吹草三〕越前　塗笠

〔好色二代男五〕彼岸參りの女不思議

それ〳〵　御所染被一連皆よし、其跡の木地の笠是一じや、〇略下

〔男色大鑑一〕此道にいろはにほへと

木枝に掛置し木地笠をとり〳〵に、いそぐや暮の面影、〇略下

〔源平盛衰記三十五〕巴關東下向事

巴ハ〇略中七騎ガ先陣ニ進テ打ケルガ、何トカ思ケン、甲ヲ脱、長ニ餘ル黒髪ヲ、後ヘサト打越テ、額ニ天冠ヲ當テ、白打出ノ笠ヲキテ、眉目モ形モ優ナリケリ、歳廿八トカヤ、

〔義經記七〕判官北國落の事

白き大口けんもんゑやのひたゝれをきせ奉り、あやのはゞきにわらんづはかせ奉り、袴のくゝりたかくゆい、ゑらうちでのかさをきせ奉る、

〔嬉遊笑覽二器用中〕安齋云、白打出の笠は、銀を打のべたる笠なるべし、〇略中 白とは銀のことなりといへど、非なるべし、うちでは打出の太刀などの如く、新たに作りたるをいふ、古きは白からず、故に白打出といふ也、

〔伊呂波字類抄雜物无〕繻女笠也